

経営者マインドに優れるれんこん経営体の育成

県南農林事務所稲敷地域農業改良普及センター

稲敷市浮島地区、河内町金江津地区には、大規模なれんこん経営体が複数あり、普及センターでは各経営体の課題に応じた支援を行ってきました。出荷調製の効率化や販売促進、高温に起因すると考えられている「すねあがり」の対策、カモ類による食害対策を実施し、収量や品質の向上を図ることにより、市場評価の高い産地として更なる発展を目指しています。

出荷調製の効率化と 6次化商品の販売促進支援

管内の大規模れんこん経営体 A に対し、規模拡大に向け出荷調製施設の新設を支援した結果、調製出荷作業が効率化し、より鮮度の高いれんこんの出荷が実現しました。また、茨城の新しい定番土産を目指し商品化した未利用部位のれんこんを使用した「茨城サブレ」について、6次化コンテンツ出品等を通じて販売促進を支援しました。



図1 れんこんの未利用部位活用商品

表1 品種比較試験結果

掘取日	品種	調整後 (g)	すねあがり (g)	歩留まり率 (%)
9月30日	金澄39号	1,092	399	73.2
	ひたちたから	1,410	207	87.2
11月18日	金澄39号	1,180	587	66.8
	ひたちたから	1,003	602	62.5

表2 栽植密度試験結果

区	栽植密度	調整後 (g)	すねあがり (g)	歩留まり率 (%)
試験区	182cm×364cm (6尺×12尺)	726	423	56.1
慣行区	182cm×303cm (6尺×10尺)	630	494	63.2

カモ類被害対策としての 「レーザー照射」効果の検討

カモ類の食害による収量や品質の低下が課題となっているなか、新技術としてレーザー照射装置を利用した防除効果を検討しました。

その結果、カモが飛来する前からレーザー照射装置を設置することで、侵入を抑制できました。一方で、すでに餌場として認識されているCほ場では効果が低いことから、今後も、慣れが生じないか継続して確認していきます。

高温障害対策支援

高温に起因するとされる「すねあがり」による収量の低下が問題となっているため、新品種や栽植密度による効果を確認しました。

その結果、晩生である供試品種「金澄39号」は早生品種「ひたちたから」と比較し、11月時点で同等の重量・歩留まり率であり、経時的に歩留まり率の低下が小さいことが確認できたため、産地での導入につながりました。

また、栽植密度について、疎植は慣行に比べ、歩留まり率は同等で10a当たり1列の植付本数が少なくなるため、作業効率が向上することができました。

表3 カモ害対策としてのレーザー照射効果

ほ場名	Aほ場	Bほ場	Cほ場
レーザー照射	0	24	158
照射なし	9	124	53

※ 単位は(羽/日)

※ Cほ場は複数年、餌場として認識されている。

図2 夜間、ほ場へ侵入し、レンコンを食害するカモ

